

阪神・淡路大震災からの復興の経験を 途上国の未来のリーダーへ語り継ぐ

～震災 30 年の節目に兵庫県から世界に伝えられること～

JICA 関西は、2025 年 2 月 18 日～20 日、開発途上国から来日中の JICA 留学生（＊）約 30 人を対象に「阪神・淡路大震災からの復興」と題したプログラムを実施します。同プログラムでは兵庫県の復興を兵庫県防災監及び副知事として牽引した齋藤富雄氏（関西国際大学名誉教授）をお迎えし、途上国の未来のリーダーとなることが期待される JICA 留学生と、①防災の我がごと化、②災害に強いまちづくり、③防災教育を推進するための取り組み、の視点から震災 30 年の経験を各国でどう活かせるか考えます。また、北淡震災記念公園、人と防災未来センターの視察も行います。JICA 留学生は、プログラムで学んだことを記事にまとめて母国に発信し、防災の重要性を世界に伝えていきます。

SDGs のゴール 1（貧困をなくそう）でも設定されている、「あらゆる気候、経済、環境的な打撃および災害のリスク軽減」。特に脆弱な途上国では災害による被害は甚大であり、災害への備えは喫緊の課題です。震災から 30 年の節目を迎え、日本で生活する JICA 留学生は震災があったことをほとんど気にすることなく過ごしています。阪神・淡路大震災からどのように復興してきたか理解することは、彼らの母国で災害に備えるヒントになり、自国で災害が発生したらどうするべきか考えるきっかけになるはずです。

以下プログラムで聴講、取材、JICA 留学生へのインタビュー（英語通訳あり）が可能ですので、ご希望の方は、2 月 14 日（金）までに問合せ先までご連絡ください。

＊ JICA 留学生：開発途上国から JICA の人材育成プログラムで来日し、日本の大学（修士課程あるいは博士課程）で学んでいる留学生。JICA 留学生は、自国の行政官、研究者、民間企業出身者などバックグラウンドは様々ですが、将来国の発展を支えるリーダーとなることが期待されている人材です。自身の専門の研究とともに、日本の近代化の歴史を学ぶことで、日本と途上国をつなぐ架け橋となることも期待されています。

【本件に関する問い合わせ先】
JICA 関西 箸、鍛治澤
TEL 078-261-0341 e-mail: ksictp2@jica.go.jp

プログラム詳細:

時間	内容	備考
2 月 18 日（火）＜1 日目＞		
9:30～12:00	講義（新聞のちから：取材・情報収集について） 場所：JICA 関西	講師：読売新聞社（日本語）
14:00～16:00	北淡記念公園視察	語り部（英語）
2 月 19 日（水）＜2 日目＞		
10:30～12:30	齋藤富雄氏との意見交換 ①防災の我がごと化、②災害に強いまちづくり、 ③防災教育を推進するための取り組みについて 場所：JICA 関西	日本語
14:10～16:00	人と防災未来センター視察	
2 月 20 日（木）＜3 日目＞		
10:00～12:00	ワークショップ（記事作成） 場所：JICA 関西	講師：読売新聞社（英語）
13:30～16:00	ワークショップ（記事作成） 場所：JICA 関西	講師：読売新聞社（英語）